◎大花里一之鳥居
貝塚特集

上西集落支援員だより

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一　編集
連絡先090－9579-3953
上西校区長責任発行

縄文時代の遺跡　地元出身の考古学研究者が発掘

大花里一之鳥居貝塚

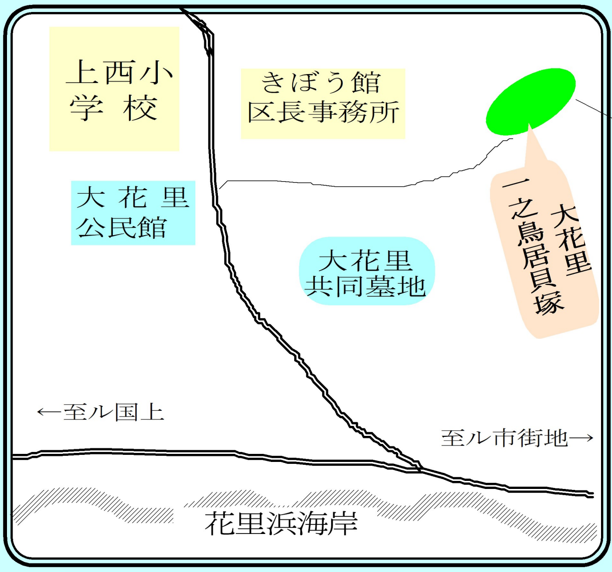
ハゼの葉

年末の新聞に、「１万年前の勾玉形飾り」が安城で出土したというニュースが写真付きで報道されたのを興味を持って読んだ方もいらっしゃると思います。

１万年前というと縄文時代早期になりますが、上西大花里でも昭和55年に字一之鳥居の砂丘で縄文時代後期と思われる土器・石器・貝製品・貝類・魚骨・獣骨類が発見、採集されました。この作業に当時関わった大花里出身で私の同級生でもある考古学・民俗学研究者、**関一之**さんの論文から要点を紹介します。

貝塚とは？

◎稲作が盛んだった弥生時代の前、住居を移動しながら狩猟・採集生活をしていた縄文時代、食事後に残された貝がらや獣骨などのゴミ捨て場のこと。中には使われなくなった土器などもある。



西側から見た風景↑下のような貝殻は西側に多い。

鉢形の土器

←上からの図
↓側面図
0　5cm

私のような素人はすぐに大きな貝がらなどに目を向けるが、専門家の関さんは左の土器に注目した。

側面の紋様。口は19~22cmの楕円形。特に突起部の穴に。取っ手の接続に使われたと予想する。　紋様の緻密さ、芸術性から製作された時代、土器の使用法について思いをめぐらせたのであろう。

↑ナガラメの殻

↓何かの獣の骨

←大型の貝
トウカムリ
全長20 cmはある。

大花里遺跡はまだ研究結果が出ていないため現状保存にご協力を。なお現場は私有地でもあります。

関一之さんは姶良市教育委員会に勤務し、薩摩焼の歴史に多くの功績があります。なかでも、古龍門寺焼の発掘など文化財調査に専念されました。しかし上西小の還暦同窓会の直前に亡くなられました。彼が心血を注いだ考古学の発展をご祈念するとともに、ご冥福をお祈りいたします。